



情報流通行政局情報流通振興課
情報活用支援室主査

桐山 真美
KIRIYAMA MAMI

平成 22年 4月 総務省採用
四国総合通信局情報通信部情報通信振興課
平成 23年 4月 四国総合通信局情報通信部電気通信事業課
平成 24年 4月 総合通信基盤局電波部衛星移動通信課
平成 26年 8月 総合通信基盤局電波部電波政策課国際周波数政策室
平成 28年 4月 総合通信基盤局電波部衛星移動通信課
平成 28年 7月 総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課
平成 29年 10月 総合通信基盤局電波部電波政策課
併任 東京オリンピック・パラリンピック電波利用支援室
平成 30年 4月 現職



日本の未来を創る仕事

ICTを活用し、共生社会の実現を

日本は、世界に先駆けて人口減少や少子高齢化、それに伴う生産年齢人口の減少に直面しています。このような中、総務省では、ICTの利活用という観点から、年齢・性別・障害の有無等に関わらず、誰もが豊かな生活を享受することのできる共生社会の実現に向けた取組を進めています。

私は、その中でも特に、障害当事者の方々の社会参画を推進するための取組に携っており、例えば、障害当事者の方々が抱えるニーズと支援機器を開発するICT企業のシーズが上手くマッチング出来ていないという課題を解決するため、支援機器の開発段階から障害当事者に参加してもらった仕組みの構築に向けた検討を行っています。

障害当事者やその支援者の方々とお話しする中で感じたのは、ICTに対する大きな期待です。ICTには社会を変えていく無限の可能性が秘められていると実感しています。皆さんも、総務省で、全ての人が能力を発揮して活躍できる社会を共に創り上げていきませんか。

日本代表としての国際交渉

入省以来、主に無線通信分野の国際標準化や法令改正等、様々な業務に携わってきました。その中でも特に心に残っているのは、国際連合の専門機関である国際電気通信連合 (ITU) が開催する世界無線通信会議 (WRC) への出席です。この会議は、国際的な周波数の利用方法等について規定する無線通信規則 (RR) を改正するために約4年ごとに開催されるもので、私が参加した2015年世界無線通信会議 (WRC-15) には、162カ国から約3,800名が参加していました。

私も日本代表団として、日本の意向をRRの改正に反映させるため、提案文書の説明や各国との調整を行いました。各国の利害が複雑化し議論が紛糾した議題もあり、国際交渉の難しさを痛感しましたが、無事会議を終えたときの達成感は今でも忘れられません。

2019年4月からは、行政官国内研究員として東京大学大学院で2年間研究に従事することになりますが、研究成果を今後の業務に生かせるよう多くのことを吸収していきたいと思えます。

Week Schedule

Monday

今週は木曜日の会議に向けた作業が主な業務。月曜日はICT企業を訪問し、障害者支援機器の開発についてヒアリングです。

Tuesday

昨日のヒアリングを踏まえ、障害当事者参加型の機器開発スキームの在り方に関する会議資料を補強していきます。

Wednesday

明日の会議資料について上司に説明し、ようやく配布資料が確定。視覚障害をお持ちの構成員にとってもアクセシブルとなるよう資料を編集します。

Thursday

いよいよ会議当日。様々な構成員の方々から貴重なご意見をいただき、いつも勉強させていただいています。

Friday

昨日の会議での構成員の方々からの意見を踏まえ、担当者全員で、今後の方針についてブレインストーミングです。

Private
Time

国家公務員として多くの地域の方と関わる中で、日本についてもっと知りたいと思い、47都道府県制覇を目指して全国各地を旅行しています。この写真は、三重県の鳥羽市で潮風を感じながら海をのんびり眺めている写真です。全国制覇までまだ残り3分の2ほどありますので、引き続き、現地のおいしいものを食べたり、素敵な風景を写真に収めたりしながら楽しく巡りたいと思います。

